

令和6年度第1回
富田林市都市計画公聴会

日時 令和6年9月30日（月）

午後 1時00分

場所 すばるホール4階 秀月の間

都市計画課

令和6年度第1回富田林市都市計画公聴会

1 都市計画の原案の名称

南部大阪都市計画用途地域の変更

2 原案の概要

名 称	位 置	面 積
南部大阪都市計画用途地域の変更	金剛地区	3. 1 h a

3 日時

令和6年9月30日(月)

午後0時58分開会 午後1時45分閉会

4 場所

富田林市桜ヶ丘町2番8号

すばるホール4階 秀月の間

5 出席者

(1)議長 富田林市産業まちづくり部都市計画課

課長代理 田中 庸介

(2)公述人 3名

(3)公述聴取者 富田林市職員

(4)傍聴人 4名

令和6年度第1回富田林市都市計画公聴会 全文

(午後0時58分開会)

○司会（早川主査）

まだ定刻になっていないのですが、皆様全員おそろいになられていますので、只今から、令和6年度第1回富田林市都市計画公聴会を開催いたします。

司会をさせていただきます都市計画課の早川と申します。

初めに、配布資料として、前方のスクリーンと同じ内容を印刷したのになります。公聴会資料と富田林市都市計画公聴会規則をお席にご用意させていただいております。

本日の案件は、1件で、都市計画の素案の名称は、「南部大阪都市計画用途地域の変更」です。開催に当たりまして、皆様にお願いがございます。携帯電話をお持ちの方は、音の出ない設定をお願いいたします。

また、公述内容については、記録作成のため、事務局にて録音をさせていただきます。これに伴い、私語や議長の許可していない撮影や発言等は禁止されております。公述人の発言がよく聞こえるように、ご静粛をお願いいたします。

本日の議事は、都市計画課、課長代理の田中が議長として進行いたします。それでは、よろしく申し上げます。

○議長（田中課長代理）

本日、議長を務めさせていただきます都市計画課の田中と申します。

開催に当たりまして、まず公聴会の趣旨、意見の取扱い等についてご説明させていただきます。

まず、本日の公聴会に関する公述の申出、意見の陳述などの手続については、富田林市都市計画公聴会規則に基づき行います。

公聴会は、都市計画法第16条第1項に基づく法定の手続で、公聴という言葉の意味のとおり、住民の方からご意見を聴く手続です。都市計画決定手続での住民参加の拡大を図るため、計画の作成段階における住民等の意見陳述の機会を保障することを目的とするものです。質疑応答を行う場ではありません。また、あらかじめ公述の申出のあった方に公述していただく場となっており、公述中は質問をすることはできません。

公聴会の記録につきましては、後日、本市において議事録を作成した後、公述人の方にご発言内容の確認をさせていただきます。

そして、公聴会以降の都市計画手続としては、公聴会の記録及び公述意見並びにそれに対する本市の考え方を併せて富田林市都市計画審議会へ報告します。

次に、本日の公聴会における公述の方法について説明いたします。

最初に、事務局より、都市計画の素案について説明させていただき、その後、公述人の方に公述していただくこととなります。順番につきましてはご申出順となります。

公述に当たりましては、お座りになられているお席から、ご着席のままでけっこうです。お席のマイクにて、公述申出の際にご提出いただきました要旨に従って、ご発言をお願いいたします。発言時間は1人30分以内となっていますが、発言時間より早く終わられましたら、そこで終了していただいても結構です。

それでは、まず、先日の説明会と重複した内容となり、ご存じの方が大多数と思われませんが、国の指針でも都市計画の素案の提示が必要となっていますので、概要を事務局から再度ご説明いたします。

○事務局（早川主査）

それでは、「南部大阪都市計画用途地域の変更」についての概要をご説明させていただきます。前方のモニターをご覧ください。

最初に、変更の理由について、ご説明します。

本市では、「金剛地区再生指針」及び「金剛地区施設等再整備基本構想」を策定し、老朽化した施設等の再整備や都市空間の再編などによる都市機能の高度化等について検討を進めています。老朽化した既存施設については、若者・子育て世代の定住を促進するための子育て支援機能、高齢者等の健康で安心できる暮らしの確保や近年の健康志向の高まりに対応するための健康増進機能、さらに、地区内外の多様な人々の交流を実現する交流機能を備えた、地区のシンボルとなる魅力的な多機能施設へと再編を行います。当該施設を中心とした賑わいの創出に向けて、検討した結果、本案のとおり用途地域を変更しようとするものです。

次に、変更する区域について、ご説明します。地図の赤枠で囲まれた区域におきまして、用途地域を第一種中高層住居専用地域から近隣商業地域に、容積率を200%から300%に、建ぺい率を60%から80%に変更しようとするものです。

説明は、以上です。

○議長（田中課長代理）

それでは、3名の方から公述の申出があり、ご発言いただく予定になっております。公述の順番は、公述申出順での公述をお願いします。

それでは、1番の方、よろしくお願いします。

○公述人1

よろしくお願いします。

まず、金剛中央グラウンドの用途地域だけを変更するという形で話は進んでるんですけども、実は私は、金剛再生指針の委員でもあり、金剛まちづくり会議にも出席しているメンバーです。かなり関わっていると自分では自負しているんですけども、今回の用途地域変更に関しては、一切行政からの話は聞いておらず、他者の方からお聞きして、今回の説明会に参加したという流れなんですね。

行政とまちづくり会議っていうのは、やっぱり連携すべきではなかったのかなっていうこと、広くから意見を求めるっていうのであれば、そうすべきだったんじゃないかなと思っております。

金剛再生と、にぎわい大通、金剛全体を考えた場合、用途地域に関しては、金剛中央グラウンドだけで本当にいいのかというところでは、きちっと全体をやっばり見直す必要があるのではないかとこのところ、意見を述べさせてもらっています。

金剛中央グラウンドの用途変更に、異議を唱えているわけではなく、全体を見て、考えて欲しいというのが、意見の内容です。

まず、理由としては、消滅可能都市というふうに言われて、もう10年近くが経っております。で、毎年1000人ずつの人口が減少している中、金剛再生が消滅都市の希望じゃないのかなというのが、もともと自分の中にはありまして、その金剛が、金剛駅から中央グラウンドに、このにぎわい大通を金剛再生では、取り組んでいこうというふうに言われているんですが、中央グラウンドだけを用途変更されて、果たしてにぎわい大通が他のところもきちっと見ないでできるのかなというところを疑問視しています。

住民は、やはりこの全体がどんなふうになるのかっていうのがやっば見えないんですね。中央グラウンドだけを、用途地域の方をね、変えるっていうのではなく、やっばり全体を見て、というところを、住民は求めているんじゃないかなというふうに思っております。

それから、今回の説明会、この資料を見させていただいて、とてもお粗末なもんじやなかったのかなと思うのは、もう全くすべてが今回用途地域を変えないとできないような書き方をされているんですけどもね、来られた方も、これは変えなくてもできるのよ、できるんだっていうようなね、提言をされた方もいました。

でも、その方に対して、きちっと説明が行ってない状況下で、他に来られた方も、用途地域を変えなくても、建て替えはできるのではと疑問視をした人もいたと思うんです。それは資料不足を指摘させていただきます。

例えば、用途地域による建物の用途制限の概要っていうようなものを、付けていただけでいたなら、市の説明も分かりやすかったと思うんですけども。

そういう資料が全くね、添付されていない状況で、説明会が粛々と終わったというところでは、本来ならもう一度説明会をきちっとすべきじゃなかったかなというふうに思っております。

最後に、今一度、金剛全体を見て、物事を考えて欲しいっていうことを、私は今回公聴会で言わせていただきましたかった部分です。以上です。

○議長（田中課長代理）

ありがとうございました。続きまして、2番の方、よろしくお願いします。

○公述人2

よろしくお願いいたします。

●●地区の●●と申します。

この度、提案されている内容について、私は都市計画審議会のメンバーでもあります。その中で、7月31日に、都市計画審議会が、すばるホール3階展示室で開催されました。その時にお聞きしたのは、大阪府の事前協議を経て、この原案を作成されて、説明会、先ほど●●さんからのお話があったように、金剛連絡所の方で2日間にわたって、8月23日、24日に行われました。説明会の時に、なぜ、これまでの第一種中高層住居専用地域から近隣商業地域に変更する必要があるのか、そういうことをもう少し早い段階で我々が知りたかったというお話がありました。

今日の公聴会、9月30日を経て、都市計画審議会が11月にあるようですけども、今までの面について、市民からの意見が反映される機会はどこにあったんでしょうか。

全て、明らかにはできないにしても、ここに書いてますような、現状と整備予定の内容について、多機能複合施設を作るということですから、そういうものについて、どのような内容のものか、もう少しはっきりしないと、第一種中高層住居専用地域から近隣商業地域に変更する理由立てができないものと考えております。

そういった意味で、今後もう少し時間をかけて、私たち市民に変更の理由を明らかにする必要があるのではないのでしょうか。

以上でございます。

○議長（田中課長代理）

ありがとうございました。続きまして、3番の方、よろしくお願いします。

○公述人3

●●地区の●●と申します。

30分という時間をいただけたんで、ちょっと丁寧に関わりからお話をしようかなと思っております。

まちづくりの説明あったんですけれども、私とまちづくりとの関わりということで言いますと、2015年、前多田市長の時ですね、この時からこのまちづくりのことを市民に頼んだということで、話し合いが始まりまして、高辺台一丁目で行けたら誰か代表行ってくれへんかと、あるいは行きたい方行ってくださいという申し出があったので、立候補しまして、参加させてもらいました。それから、確か2015年の3月から5月の間だったと思います。そういう形で住民としていろいろ意見が言えるんだということで参加して参りました。

その続きで、いよいよ市の方では金剛の再生指針というものを作るということで、話が進んでいたようなんですけれども、住民の意見を聴いた上でやるということで、金剛再生指針策定協議会を作るということでその市民代表、市民協議員を、募集するということがありましたので、僕はそれに立候補いたしまして、2016年から、大体そういう話し合いに参加すると、実際に始まったのが2016年の7月1日、多田市長も来られまして、ここやったかな、これから協議を始めますということでやって参りました。

だから、市民の意見を聴きながらね、やっていってくれるんだということで、この間ずっとやってきまして、現在2024年の9月ですけども、この間ずっと続けてきまして、2年の任期だったと思いますが、2024年の6月2日に、現在もう1回囑託という形で協議員をやって、やるということで決まったんです。その間僕自身は、まず休むことなく協議会に、記憶が正しければですが僕の記憶ではすべて出てきたかな。

ただ、一番最近の協議会の時に、残念ながらメールのちょっと通信が悪くて僕に連絡が来なかったんで、参加の要請がなかったんで知らなくて、いっぺん抜けたと言うことはありますけれども、それ以外は全部その協議会に参加してきたということで、『金剛再生指針』を作る中でもね、いろいろもう意見を言わせていただいたということです。

今日の公聴会の中の資料にもありましたけども、この作られた金剛再生指針と、そして、『金剛地区施設等再整備基本構想』ですか、これは僕今持ってますが、『金剛再生指針』、これと、金剛再生の『基本構想』ですね、これを一緒に作ってきたという気持ちを持ちは、私自身は、持っております。

僕が一番この中で、一番大事だと思ってるのは、『金剛再生指針』のポイント、最大の特徴になるのは、市民の意見を聴きながら、市民と一緒に作っていくんだということが一番強調されていたというふうに思っております。

こう書いてあるのかな、「金剛地区に関わるすべての人、住民、地域団体、事業者、行政が連携」というのを、第一の特徴というか、作る時の特徴として挙げています。

2つ目に、住民主体のまちづくりを形にするということでも書かれております。

3番目に、行政、事業者は住民主体のまちづくりを形にするためのサポートとして位置付けて、あくまで住民が中心であって行政と事業者にはサポート的な立場でやるという、そういうことがこの指針に書かれてあったと思うんです。

ページで言いますと、2ページにこんな絵がありましてね、やっぱり住民中心になってるんです。行政と事業者はやっぱりサポートですよ。

ただし、一緒にやっていきますしね、協力しないと無理ですからね。

その中でやってきましてね、何回も言われたのはまちづくり会議を作るとか、いうことをやってきましたけども、市の側からよく言われたのは、「市民中心にやってください」とかね、これから行政はできるだけ手を引くという言い方は正しくないですけども、「できるだけ住民中心でやっていただきたい」から、我々がちょっと横から見て的発言は割とありまして、そういう中で僕ら、まちづくり会議を作って、その中で何ができるかなということを実はいろいろ検討してきたわけです。

それはまちづくり会議と言っても、結構集まって話し合いをしてましてね、協議会は年に何回かしかありませんが、場合によったら、月1回とか、月に何回か集まることもありまして、住民の立場ではかなり話し合いをやってきたというのが僕らの、僕自身の実感です。

その中でね、話し合いの中で僕たちは何を話したか言いますとね、やっぱり、なんというかな、市にすべてを任せていく、これは違うだろうと、やっぱり住民が主体的に取り組む、取り組めることは当然取り組んでいくと、そういう形で、やっぱり住民が主体なんだということは間違いないということで確認いたしました。

ただ、具体的な活動をやったり、まちを良くしていったりしようとする、施設の問題とか、財政的にね、援助いただかないかんとかね、やっぱりここは市がやっていただかないと実現できないと、施設はある意味、核になりますからね。そういう意味では、やっぱり行政と一緒に地方公共団体が責任を負うべき点は負っていただきたいということで話をしながら、僕らも協力もするしやりたい。

僕らの考えでもやっていくし、やっぱり主体にもなっていくけれども、そういう意味で連帯しましょう、連携しましょうということで進んできたわけです。

その中でね、まちづくり会議としては、例えばね、今ちょっと形が変わっておりますが、防犯のことをやろうとか、居場所づくりやろうとか、それからイベントを起こそうとか、僕自身一番関わったことですが、公園づくりなんかをやっていこうということで、そういう部会を作りまして、やってきました。

そういうふうにしてやるには、ちょっとまちづくり会議だけでは駄目なんでね。突然、市民が集まって話が進むか、ちょっとそれは進みません。なかなか難しいので、ある意味、中心的にやっていく人いるなど。

これは●●さんという方なんか随分おっしゃっていただきまして、6人ぐらい集まって、事務局的なものを作りまして、そこでは、事前に次のまちづくり会議では何をしようかとかいうようなことも話し合っただけで進めてきたわけです。

そういう点では、まちづくり会議と僕らがやってきた事務局的な仕事と言いますかね、これらを随分頑張ったと、自分自身思っております。そういう基があるということは、ぜひ理解していただきたい。

それに、NPOのきんきうえぶの方だとか、参加していただきましたし、アドバイスいただいたり、それから金剛再生室の市の方にもいろいろアドバイスいただいたり、やってきましたので、そういう点では連携はある程度できてたかなと思っております。

ただね、今日公聴会があるので、この公述、僕は絶対しないかなと思ったのは、やっぱり理由がありまして、何かと言いますとね、この住民の『金剛地区再生指針』だけじゃなくて、先ほどありましたこれも基本にするとおっしゃるんですね、『金剛地区施設等再整備基本構想』、これなんか見てもやっぱりここで書いてあるのは、金剛地区に関わるすべての人たちが連携していくんだと、開発当初から育まれてきたまちの空間の魅力を生かすんだと、それで、金剛地区に関係する人たちが連携したまちづくりするんだということ、やっぱりここでも強調されてましてね。

これは金剛地区の中でも特に金剛駅とか中央公園中心のことが書かれてるんですけども、やっぱりそこでも改めてそういうことは住民連携してやるんですよ、住民主体大事ですよということで、強調されてやってきたと。

そういうことでやってきたんですが、なぜか、この間、まちづくり会議とかね、僕は住民の意見を聴いていただけてないんじゃないかと思う場面が実は多々感じてきたことは事実です。

例えばどういうことかと言いますとね、長い歴史で見ていきますともう9年ぐらいかかってんのかな。例えばね、これ良いか悪いか別問題ですけども、金剛連絡所の小ホールが廃止されました。廃止という言い方はいかんけどね。あれが、「福祉なんでも相談室」に変わりました。これ、僕らがいろいろまちづくり考えてる時にパッとこういうのが出てきましてね、変えられたと。その時にも、僕は「あっ」と思ったんです。だって、施設を考えたり拠点を考えたりする時に、やっぱりいろいろ思うじゃないですか。それが突然そういうのがパッとできて小ホールが無くなる。居場所無くなるイメージでしょ。

それがね、パッと出てきて、何か決まってしまうということでね、代案、いろんな他の代替施設を作りますという話ありましたけれども、現実には市長さんにお会いもしましたけれども、それは残念ながら実現しなくて、今小ホールは、まちづくり、「福祉なんでも相談室」になっています。それはそれで値打ちのあることです。

でも、逆に言うたら犠牲になってる部分もあるわけで、そこはやっぱり住民の意見とか聴かないと、やっぱり駄目な事じゃないかなと思っております。これ1点ですね。

それから、もう一つ思ってるのが、今も利用されてて大事だなと思ってるんですけど、KONROOMっていうのがありますが、あそこも、ある意味突然まちづくり会議での話だとか僕らにいろんな打診があったり、意見聴かれたりということがなくて、

ここはもうKONROOMという、コワーキングスペースを作るんだということで、突然出てきましたね。何か、それが進んでいってしまっている。

実はその時に、まちづくりの中でも、「居場所づくりいるやろなっ」ということでね、「わっくカフェ」というのを作ろうとか、どうしようとか、これやっぱりお金の問題もあって、どうしようかという議論が、実は僕は参加しなかったんですけども、されておられる方がおられて、そういう方々がもしそういうKONROOMの所、なんか使いたいと、こういうふうに変えたいという話が、もし事前に伝わっておいたら今と違う形のものがつくれたんじゃないかな。今のが駄目だというわけじゃないですよ、じゃないんだけどね。もっと別のものをできたんじゃないかなということ、この時も非常に思いました。

そういう点でね、やっぱりこれ大事な時に意見を聴いていただけてないなというのは、率直なまちづくりに関わってきた者としての気持ちです。

もう一つ特徴的だったのは、僕らは、特に市民が中心にやらせていただいているというとおかしいけど、やってる寺池公園の整備という問題がありまして、ここはもう人が行けない、小学校は行っては駄目ですよという校長先生の方の話がある。

それほど暗い場所、寄りついてはいけない場所になってしまっていたのを、「これやっぱり市民の憩いの公園にしないかな」ということで、水辺の見える公園づくりということをね、市民中心にやり始めたんです。

これは●●さんという方がね、本当に中心になって、水利権についてはこれは狭山が水利権持ってますから、狭山市との交渉行かれたり、僕もついて行きましたけれども、あるいは市の公園課といろいろ話をしたり、いろいろそういう折衝しながら進めてきたんです。で、なかなか木がうっそうとしてたらなかなか行けないので、これはボランティアの藤沢台の方かな、ボランティアの方なんかにもちょっとお願いして、また参加していただいて、ご協力いただいて、できるだけ見えやすい、水辺が見えるような、公園というのを作ってきたと。

同時に、僕はじめ知らなかったんですが、寺池公園の下、ずっと池の辺りに降りて行きましたらテラスがありましてね、円形の広場があったんです。こういうのあったんだと、今後自分らでも活かせるじゃないかということでそこ掃除したりね、いろいろやって参りました。

そういうので、もっと人に来てもらおうということで、今現在も取り組んでいるのが、プレイパークというね、斜面にロープを張って子供がすべって行くとかね、山登りをするとか、そういう、来ても遊べる場所、楽しめる場所なんだよということでやってきたんですね。

それはやってたんですが、実はその最中にですね、桜の苗木を60本いただいたのでこれ植えるんだという話が出てきて、これは誰が独断でやったか知りませんが、それをパンパンパーンとここでここと植えようということ、何か突然始まりまして、僕らがプレイパークでここをこう使おうと、ロープ張ろうとか考えてたところ、全く無視した形で、植樹の場所を決めようとしてた。

これはもう驚きでありまして、これについてはかなり地域からもいろんな問題出ましてね、「これはもうやり直した」みたいな形になりまして、これは確か、市長さんが、謝罪に来られたのかな、寺池台小学校のところで一回集会もったことありますが、そういうようなことが実はあったわけですね。

そういうことを僕はずっと見てきた中で、まちづくり会議、住民の意見がどれだけ聴いていただいているのかな、あるいは事前に話をするとき、計画を進めるとき、どれぐらい意見を聴いていただいているかについては、非常に疑問に持ってるという、そういう土台が実はあるわけです。

そういう中で今回、この用途地域変更の説明会がありました。

その前に中央公園をどうしようかということでは、これは市の方も来て、僕らも入って、市の方も随分考えていただいて、今使っておられる野球をやっておられる方々に対してもね、市の方々の、再生室の方々も非常に努力してやっていただきました。そういうのはよく分かっております。

そして、案を出してきていただいてね、最初、全面芝生とか、だったら「これちょっと無理じゃないですか」と市民の方からね、これを「経費とかあるいはメンテナンス考えたら、ちょっとしんどいですよ」とかいろんな意見を出しまして、体育館も今閉まっていますけれども、あそこを体育館だけじゃなく多目的にするんだというのに対して、僕自身はそこは文化施設的なものを入れる、幼稚園、幼稚園じゃないわ、図書館的なものをね、入れるとか、場合によっては、不登校対策的なね、そういう地域の子供が行けるような、中学生も行けるようなものを作ったらどうですか、などいろんな意見出しましてそれで計画案を出してきていただいたんです。それは、一緒に連携といいますか、話し合ってきたのは間違いございません。

こういう形で進むのかと思ってきておったら、今度、突然、あれは商業地域でないとできないんだという話を聴きまして、実は説明会が8月の23、24やったかな、2日間あったんですけども、まちづくりをやっていた人間に対しては実はアナウンスは全然なかったんです。たまたま僕は何かで見た。●●さんもたまたま見つけた。一番中心になっておられた●●さんは知らなかったと、後で聴いたっていうことになってましてね、こういう非常に重要なポイントで、なぜ説明会に知らされないんだというのはこれある意味ね不信感に繋がるわけです。あれだけ僕らも協力して一緒にもやってるのに、なぜこういうポイントでできないんだという、そういう事をすごく思うわけです。

やっぱりね、もう一つその中で出たのは、商業施設になるということは例えば「いろんな業者が勝手にやるんじゃないですか？」という疑問が出る。PFI どのこのっていう話もあって、そこら辺僕はよく分かりません。

でも、ある意味、市民から離れた、要するに業者サイドの一方的になるんじゃないかなという心配があるのはこれ間違いのない事実ですから、それじゃないんだということをおっしゃるのであれば、この説明会の中で、「商業地区になったら何ができて何ができないのか」。これじゃないと絶対駄目なんだということは、非常に丁寧にやっぱり説明していただかないと、これまでの経過とか、あるいは僕らがいろいろ願っている

こととか、これは本当に場合によっては、切り捨てられるんじゃないかという心配が出てくるのは当たり前話でありまして、そういう点で「説明は」と聴いたら、「いや、大阪府がそういうふうに言っていますから」という話しかなかったんです。

僕は「具体的にはカフェができるから駄目なんですか」って聴いたら、「いやそれだけではありません」というふうにおっしゃられたんで、どういうことなんだと、何ができて何ができないから、こういう商業的な場所にしていかないかんだという説明がないんですね。

それはもうある意味不信感に繋がるわけで、そういう点から見てね僕は、すごく今回の説明会っていうのは良くなかったなと、非常に良くなくて、今までの市が頑張ってる面と、ある意味強引にやってる部分があると感じてますので、何か悪いところが全部出たなあと思いましたので、それで今日公述の機会があるのでね、僕はもう絶対しゃべりたいなと思ったわけですね。

そういうことを、僕らの立場がどういう目で見ているか、僕らがどういうふうに市を見ているか、何を市に期待してるか、市に何の説明を求めているのかという事はやっぱり掘り込んでいただかないと『金剛再生指針』の最大の特徴であった、住民主体と連携、行政、事業者、住民、そういういうステークホルダー連携という、最も大事なポイントが完全に無くなってしまいうんじゃないかと非常に大きな不安を感じましたので、あえてここで強く言いたいわけです。

そういうふうなことで、やっぱり説明とか住民に対する説明とかいうのは、そういう意味ではね何人、人が来たとかね市民の状況をつかんで。やっぱり市としては十分な説明を尽くすんだという態度で臨んでいただかないと、残念ながらそれは不信感に繋がってしまうんだと。

この不信感が間違ってるかもしれないし、本来もっと信頼し合ってね、やっていくべきもんだと思うんですが、残念ながらそこに、大きなひびが入ってしまうんじゃないかとすごく感じましたので、それはもうぜひ今日ここで言いたい。

そうこうしてちょっと話題の中央公園から離れてしまうんですが、もし、今やっぱり僕が抱えてる大きな不安というのはまちづくり問題であって、高辺台は、実は外されてると、ちょっと外れてるんですね、中央公園中心にパッと進んでますから。

高辺台のこと考えないといけないので、高辺どうしようかなとか。当初あったのがウォーキングなんかやったかな。要するに歩きまわれるやつね、ウォーカブルプランみたいなんですね。それで実は当初から出てたのは、もっと歩ける場所にしよう。僕の近所、僕は金剛地区ですが、すぐ行ける金剛東地区は、そういうのが結構ええ所あるんでね。

ああいうふうにできるような、あるいはもうちょっと何か繋がりを持てるところでウォーキングルートをつくる、それで僕ポイントやなと思ってた風土の丘というのがあるんですが、ポイントになるかなと思ってたらそれが今度、議会の中の話聴いてると「無くす、無くしたらええんちゃうか」って話が出てるってびっくりしましてね。

これは別の話はここではそれ以上言いませんが、やっぱりそういう何か知らない間に住民の気持ちとか僕らが考えたまちづくりとか、いろいろ考えてるんだけど、知らないうちにどっかで決まってくとか、なんか話がどんどん進んでいくとか、別の角度からまた感じましたのでね。

これはやっぱりもう一度、再度、『金剛地区再生指針』がかなり時間をかけて、市の方でもかなり時間をかけ、市民からの代表を募り、協議員も募り、話をかけて時間をかけて話し合ってきた、これ原点ですね、まちづくりの原点、これやっぱりもう1回ね、しっかりと考え直しと言いますか、立て直して欲しいと言いますか、市としても、もう1回どこに重点を置いてまちづくりするのかということ、やっぱりはっきりと展望を持って欲しいなど。大きな、先ほど●●さんの方からもありました、大きな目で、大きなプランで、このまちづくり再生を進めて欲しいなどと思っています。

金剛は、僕自身は非常にものすごくいい場所だなど思っております。若い人たちも、金剛地区に何を求めているかっていうと、『富田林市緑の基本計画』っていうのがありまして、それ見てたら、若い人たちは、金剛地区、金剛東地区をすごく緑がいいところだということで、ものすごく評価します。金剛地区はものすごく評価値高いです。

もしまちに何を望みますかアンケートをとると、子育て世代の方ですよ、世代で言えば子育て世代、若者世代の方々に、一番多いのやっぱり環境と緑なんです。それをものすごい大事にし、一番回答多いです。

しかも風土の丘は最高な場所だと思いますのでね、そういうところをやっぱりもっと大事にして、特に住民の意見をもっと大事にして、まちづくりの会議の場所というかな、僕自身も入っている、集っておられる方の意見、まちづくり会議を広げようとしてますので、そういうところにもっと目を向けるというかな、意見を聴くというかな、そういうことでやって欲しいということだと思いますので、特に公述として述べさせていただきたい、申し出た次第でありますね。それを受けとめてもらいたい。

●●さんは都市計画に出てて、やっぱり計画見てたら何かシステム的で、言うだけ言ってしまいじゃないかなという不安を実は語っておられたんですけども。ここで言っちゃいかんかもしれないけども、真剣にやっている住人もいますから、そういう方たちのまずはやっぱり意見を聴く、あるいは説明する、納得のうえで進めていく。再生指針の原点に帰って欲しいとすごく思いますので、それが僕の1番言いたかったこととございます。

まちづくりは本当にね、事務局は6人でね、しょっちゅうロペっていう居場所みたいなところあるんでそこへ集まってね、次まちづくり会議をいつしようか、次何しようか、ここでどんな会議しようかと話します。それで、コワーキングスペースのKON ROOMでも、●●の人の●●さんとか来ていただいて、市の方来ていただいて、どうしていこうか、そういうことをすごくやってるんですわ。話すごくやってましてね。

それは連携ということでは、僕らも頑張ってるし、無茶を別に言ってるわけじゃなくて、おかしいなと思うことはおかしいと言うし、これはそうかなということ

はそうですねということで話聴いてやってるんだけど、何かこういう大きな決
事、ものすごく大きな事だったら、府から言われたとか、市としてはどうなんです
かと言っても、答えてもらえないという、ものすごいアンバランスな場面が多い。
それは説明と意見を聴いて説明するということが、そこが一番大事ということを知
ってほしいとつくづく思います。ぜひよろしくお願ひしたいと。これ、次に伝えて
ください。ということで、終わっておきます。

○議長（田中課長代理）

よろしいでしょうか。

以上で、予定していました公述は終了いたしました。

これをもちまして、本日の公聴会を閉会させていただきます。なお、駐車場は、
2時間無料となっておりますので、割引処理等は不要です。そのまま駐車券を挿入し、
ご退場ください。本日はお忙しい中ありがとうございました。

（午後1時45分閉会）